全国シルクのまち情報誌

知8・る・く

平成２９年３月

No.8

紅花先染め振袖「万葉からの誘」（山形県白鷹町）

シルクのまちづくり市区町村協議会

情報誌の名称の『知・る・く』は、「シルク」の事を「知る」、「シルク」の街を「歩く」という意味が込められており、３つのフレーズを融合させた造語です。

「知」の「口」部分は絹糸をイメージ。同時にシルクの無限大（∞）の可能性も表現しています。「く」の下部には靴をあしらい、街を歩くイメージと協議会の前進の意味を込めました。

No.8>>>Contents

●“新加入”会員自治体の紹介

（１）群馬県前橋市 …… 2
（２）東京都武蔵村山市 …… 3
（３）石川県小松市 …… 4
（４）長野県安曇野市 …… 5
（５）沖縄県久米島町 …… 6

●会員自治体の情報（シルクに関わるイベントや取り組みなど）

（１）山形県白鷹町 …… 7
（２）栃木県足利市 …… 9
（３）京都府与謝野町 …… 11

《参考資料》

シルクのまちづくり市区町村協議会・構成員一覧 …… 13
シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣意書 …… 14

“新加入”会員自治体の紹介

シルクのまちづくり市区町村協議会では、さらなるシルク産業の発展に寄与するため、シルクに関する産業・歴史を有する全国の市区町村の皆様にご参画をお願い申し上げ、より全国規模の取り組みにしていきたいと考えています。

このたび、新たに５つの自治体の皆様にご参画いただきましたので、各地域のシルク事情などについてご紹介します。

①群馬県前橋市

②東京都武蔵村山市

③石川県小松市

④長野県安曇野市

⑤沖縄県久米島町

群馬県前橋市

群馬県前橋市大手町二丁目 12 番 1 号
〒371-8601 ☎ 027-224-1111
http://www.city.maebashi.gunma.jp/index.html

概要

（1）面積　　311.59 ㎢

（2）人口

17 国調	22 国調	27 国調
318,584	340,291	336,154
65 歳以上人口比率（27 国調）		27.7%

（3）世帯数

17 国調	22 国調	27 国調
120,193	133,322	136,900

（4）沿革

明治 25 年 4 月 1 日	市政施行
平成 16 年 12 月 5 日	大胡町、宮城村、粕川村合併
平成 21 年 5 月 5 日	富士見村合併

シルク事情

▲勝山製糸所（旧藩営前橋製糸所）
宮内庁書両部提供

前橋市は、市街地の広瀬川と佐久間川にはさまれた地域に製糸工場が立ち並び、長野県岡谷市、愛知県豊橋市と並ぶ日本を代表する製糸都市でした。

その原点は、世界遺産に登録された官営富岡製糸場創業の２年前、明治３年に設立された藩営前橋製糸所でした。同所は、日本初の器械製糸工場で、富岡製糸場のモデルになりました。

藩営前橋製糸所には、全国から伝習生が集まり、前橋藩士・速水堅曹をリーダーに、官営富岡製糸場に先駆け技術伝播の拠点となりました。速水のもとで技術を教えたのは、西塚梅（速水堅曹の姉）・深澤孝（深澤雄象の娘）・上羽勇（上羽菊太郎の娘）・大野浪（大野茂惣太の娘）・小林謙（小林準太の娘）の５名の工女たちでした。中でも、大野浪は 18 歳で熊本県へ派遣され、熊本や九州各地に養蚕や製糸の技術を伝え、九州の絹産業の発展に貢献しました。

また、旧富士見村（富士見町）出身の小渕しちは、二川町（愛知県豊橋市）に製糸（玉糸）技術を伝え、豊橋市を蚕都とするもとをつくりました。さらに、旧粕川村（粕川町）出身の平野きくは、政府に選ばれタイ国に製糸技術を伝えました。まさに前橋出身の女性たちが絹産業で活躍し、養蚕や製糸を盛り立てることで日本の近代化を支えたのです。

そこで、本市では、技術が伝播した都市や関係者の子孫らを招き、平成 27 年より開始された「生糸（いと）のまち前橋発信事業」の研究成果を公表、近代日本における前橋市の歴史的な先進性や役割を発信するため基調講演やシンポジウムなど学術面からアプローチする「シルクサミット in 前橋」を平成 28 年 8 月に開催しました。

日本の絹産業を発展させ、挑戦し続けた先人たちの志や絆という歴史を契機に、藩営前橋製糸所の技術が伝播した都市や両毛線沿線の自治体と連携し、都市間交流をはかるとともに、地域の活性化につながる取り組みを推進していきます。

東京都武蔵村山市

住所 東京都武蔵村山市本町 1-1-1
〒208-8501☎042-565-1111(代表)
http://www.city.musashimurayama.lg.jp/

概要

（1）面積　　15.32 ㎢

（2）人口

17 国調	22 国調	27 国調
66,553	70,053	71,268
65 歳以上人口比率（27 国調）		24.7%

（3）世帯数

17 国調	22 国調	27 国調
25,056	26,790	28,266

（4）沿革

昭和４５年１１月３日に東京都北多摩郡村山町から東京都武蔵村山市となる。

シルク事情

▲村山大島紬

江戸時代より木綿紺絣の産地として知られていた武蔵村山の地域では、大正時代に板綿染色の技術が導入されると、絹織物の生産が盛んになり、村山大島紬が誕生しました。当時は、まちを歩くと、機の音が聞こえてきたそうです。

村山大島紬の最大の特徴は、板締め注入染色法という独特の技術で染められた絣糸を用いる事です。その絣板は、織物専用の方眼紙に板図案を描き、これを元に樹齢１００年以上経た水目桜を使用し、極めて精巧な技術を用いて、板彫りされます。これによって繊細な絣模様が生み出されます。

独特の手織機を用いて織り上げられたこの村山大島絣は、正絹板締め絣織物で経緯の絣糸を巧みに染め分けて織り出されており、精緻をきわめ、奥ゆかしい民芸の地風をもち、しかも表裏がないという特徴をもっています。

村山大島紬はこの様にして伝統の技術を忠実に守り、すべての課程を手作業で手間と時間をかけて創られます。

村山大島紬の品質の高さと堅牢さが高く評価され、昭和４２年に東京都指定技術工芸品の指定を受け、昭和５０年には国から伝統的工芸品に指定されました。

石川県小松市

石川県小松市小馬出町 91 番地
〒923-8650　☎0761-22-4111
http://www.city.komatsu.lg.jp/

概要

（1）面積　371.05　㎢（平 26.10.1）

（2）人口

17 国調	22 国調	27 国調
109,084	108,433	106,940
65 歳以上人口比率（27 国調）		27.6%

（3）世帯数

17 国調	22 国調	27 国調
35,901	37,470	38,157

（4）沿革

昭和 15.12.1　市制施行

シルク事情

▲小松綸子

小松市は石川県南部に位置し、産業都市として南加賀の中核を担っています。

平安時代に編纂された『延喜式』によれば加賀国は絹の産出地の一つとされており、加賀地方では古くから絹の生産が行われていました。また、室町時代の『廻国雑記』には「同じ国もとおりを通り侍りけるに、人のきぬをおりける見侍りて」とあり、現在の小松市域にある本折で絹が織られていたことが書かれてあります。

江戸時代の寛永 17 年（1640 年）、加賀藩主の地位を長子の光高に譲った前田利常公が小松に隠居すると、利常公付きの家臣とともに商人や職人が集まり、町は大きく発展しましたが、その利常公の保護奨励によって、中世以来の小松の絹生産は一層盛んになりました。

明治 20 年代になると羽二重の生産が発展。明治 35 年（1902 年）にはジャガード機による紋織生産が始まるなど、生産技術が発展し、小松は紋織物産地へと発展しました。その後、第二次大戦中には企業整備などにより小松の繊維業界は大打撃を受けましたが、戦後は活気づき、昭和 30 年代には小松綸子の生産が盛んになりました。

時代の推移と需要の変化により生産量は減少していますが、現在はインテリア商品への活用等、新商品開発や販路開拓を図る取り組みを進めています。

長野県安曇野市

長野県安曇野市豊科 6000
〒399-8281 ☎ 0263-71-2000
http://www.city.azumino.nagano.jp/

概要

（1）面積　　331.78 ㎢

（2）人口

17 国調	22 国調	27 国調
96,266	96,479	95,282
65 歳以上人口比率（27 国調）		29.9%

（3）世帯数

17 国調	22 国調	27 国調
32,743	34,185	34,732

（4）沿革

平成 17.10.01 合併（市制施行）
南安曇郡　豊科町、穂高町、堀金村、三郷村
東筑摩郡　明科町

シルク事情

▲ストール（穂高天蚕糸使用）

天蚕はわが国原産の野蚕で、安曇野市穂高有明地区では、天明年間（1781～1788）から天蚕の飼育がはじまったと言われています。嘉永年間（1848～1853）には繰糸の方法も取得し、明治元（1868）年頃には踏み取り機による繰糸が行なわれるようになりました。最盛期の明治 30（1897）年頃には、有明村（当時）を中心に 3,000ha から年間 800 万粒の繭を生産していました。明治 35（1902）年に病気の流行等により天蚕飼育は衰退しましたが、大正 2（1913）年に天蚕組合を作り復興に乗り出しました。その後大正 4（1915）年の焼岳噴火の降灰や、二次世界大戦などにより飼育が途絶えてしまいました。昭和 48（1973）年に穂高町（当時）が飼育を復活させようと農家の人達に協力してもらい、飼育が再開されました。現在では、安曇野市天蚕振興会によって、天蚕の飼育の技術と伝統が受け継がれ、現在でも大切に守り続けられています。

天蚕は自然の山野でナラ・クヌギ・カシワ等の葉を食物として生息し、緑色の繭で「ヤマコ」「ヤママイ」とも呼ばれています。

天蚕糸は白い絹糸（家蚕糸）と比較して、艶のある優美な光沢と強伸力にすぐれ、しなやかでしわになりにくい特性から「繊維のダイヤモンド」に例えられる最高織物原料として珍重されています。長い伝統を誇る安曇野市穂高では、今も昔ながらにクヌギなどの若葉で飼育し、座繰り繰糸で生糸を繰糸し、手紡ぎで紬糸を繰糸しています。高い技術に裏打ちされた穂高天蚕糸は織物産地からも高い評価をいただいています。

沖縄県久米島町

沖縄県島尻郡久米島町字比嘉 2870 番地
〒901-3193　☎ 098-985-7121
http://www.town.kumejima.okinawa.jp/

概要

（1）面積　　63.65 ㎢

（2）人口

17 国調	22 国調	27 国調
9,177	8,519	7,755
65 歳以上人口比率（27 国調）		26.5　%

（3）世帯数

17 国調	22 国調	27 国調
3,483	3,601	3,365

（4）沿革

平成 14 年 4 月 1 日　合併　　町制施行

シルク事情

▲久米島紬

久米島紬の起こりは、１５世紀の後半に堂の比屋と呼ばれる非凡な人物がいて、中国から養蚕技術を学び、これを広めたことから始まったと言い伝えられています。
日本の紬絣技法は久米島を起点に発達し、沖縄本島、奄美大島、を経て本土に伝えられ、大島紬、久留米絣、結城紬などのもととなり、日本全国に伝播されていきました。
久米島紬が紬の発祥の地とも言われる所以です。いわば久米島は日本の紬の里です。
久米島紬は、蚕から取った真綿でつむいだ糸を原料糸として、天然の草木、泥染めによって染色します。織りは、手投杼（てなげひ）を用いて丹念に手織りで織り上げます。これらのすべては伝統を踏襲し、一貫した手作業を一人の織子が行うところにあります。
したがって、久米島紬にはつくる人の想い入れが込められ、紬糸のもつしなやかな風合いが着る人の着心地を満足させ、さらに気品をかもし出します。
久米島紬は、昭和５０年には、伝統的工芸品として通商産業大臣の指定を受け、昭和５２年には県の無形文化財として指定され、さらに平成１６年には国の重要無形文化財として指定されました。

― 紅花先染め振袖「万葉からの誘（いざない）」―（山形県白鷹町）

山形県白鷹町は紅花生産量日本一を誇り「日本の紅（あか）をつくる町」として紅花を素材とした町づくりに取り組んでいます。この「日本の紅（あか）をつくる町」を推進する取り組みとして、町内産の絹糸を使用し町内産最上紅花の染料で染め織り上げた紅花先染め振袖「万葉からの誘（いざない）」が製作されました。

寒中での染めから織りまでを行ったのは町内の小松織物工房（代表　小松寛幸さん）。白鷹産の絹糸は濃色となる紅花染めの伝統的な手法で８回の染めを重ねています。緯糸に使われた絹糸は、町内蚕桑小学校の３年生が総合学習で飼育した繭から「しらたか天蚕の会」会員が繰糸したものです。同会会員が大切に育てて繰糸した淡い緑色で光沢のある天蚕糸も使われています。また、山形県無形文化財であり白鷹町に伝わる板締絣技法で染めた「絣糸」も織り交ぜるなど、白鷹ならではの素材と技術が注ぎ込まれています。

【 山形県白鷹町 】

山形県南部のほぼ中央に位置し、町の南西を最上川が流れ、人口は約 14,300 人。

古くから養蚕が盛んであった。町内には現在も「蚕桑（こぐわ）」とよばれる地名が残り、町内蚕桑小学校では毎年、総合学習として学校内で蚕を飼育している。かつては製糸や織物も行われ、代表的な伝統工芸品のひとつに「白鷹紬」がある。

また、山形県の花でもある「紅花」の主生産地であり、平成 28 年 3 月には紅花を町の「ふるさと名物」として宣言し、紅花を素材とした町づくりに取り組んでいる。

－やまがた里山養蚕染織研究所－　（山形県白鷹町）

「株式会社とみひろ」の取り組み

白鷹町では古くから養蚕が盛んに行われ、かつては町内ほとんどの農家で蚕を飼って製糸や織物も行われていました。その後は社会情勢の変化により衰退の一途をたどりましたが、白鷹町の伝統として養蚕文化を守り絹の魅力を発信したいと、着物を製作販売する「株式会社とみひろ」が「やまがた里山養蚕染織研究所」を立ち上げました。自社の商品を養蚕から手掛ける取り組みが始まっています。

町内十王地区に整備した作業所には、１人が常勤し蚕を飼育。町内に唯一残る桑畑を借り、町内の元養蚕指導員や元養蚕農家の方々の協力を得て、2015 年晩秋蚕、2016 年春蚕、初秋蚕、晩秋蚕で計約 150ｋｇの繭の収穫に成功しました。同時に、自社の桑畑約３反を２年かけて開墾し、1400 本の桑の苗木を植え、自社内でのものづくり体制が着々とできあがっています。

既に同社は 12 年前から自社工房での草木染手織り紬の製作に取り組んできました。 同社の冨田浩志社長は「伝統的な繰り糸の技術も引継ぎ、養蚕から織りまでの全工程を白鷹町内で行えるようにしたい。」と今後の展望を話されています。

足利まちなか遊学館リニューアルオープン
着物着付体験がスタート！（栃木県足利市）

足利まちなか遊学館は、中心市街地のにぎわいと活力の創出を図り、地域の活性化に寄与することを目的に、平成 15 年 3 月 30 日にオープンした施設です。 開設後１３年が経過し、足利を訪れた方への満足度を高め、より多くの方に訪れていただき、効果的な活用を図るためにこの度改修工事を実施しました。

１階をリニューアルし、まち歩きを楽しむ観光客の皆様に、休憩スペースを広げ、足利の伝統産業である織物関係資料の展示や各種観光情報などをご覧いただけるように改修しました。

２階では、大正末期から昭和初期にかけて一世を風靡した「足利銘仙」を中心とした着物の着付け体験ができるようになりました。着物を着て、足利の歴史的な風景の中でしっとり穏やかなまち歩きを楽しむことができます。

1 足利銘仙に着替えて昭和初期にタイムスリップ。　2 足利まちなか遊学館では「珈の菓」のコーヒーをいただくことができます。　3 銘仙の着付け体験ができる足利まちなか遊学館。事前予約がおすすめ。　4 現代でも斬新なデザインのアンティーク着物。コーディネートの中から好きなものを選べます。　5 レトロな街並みには銘仙の鮮やかな色が良く合います。

ちょっと特別なレトロトリップ

大正末期から昭和初期にかけて、モダンな色遣いと斬新な柄で人気を博し、1920 年頃生産量日本一になった「足利銘仙」。足利のまちには、歴史を感じる街並みや石だたみ通りがあり、着物姿がよく合います。銘仙に着替えてタイムスリップ。ブーツや帽子を合わせる「あしかがスタイル」もおすすめです。いつもとちょっと違う特別な時間を足利で過ごしませんか？

着付け体験

受付時間 / ９：００～１２：３０（左記時間以外は要相談。）
料　　金 / 着物レンタル＋着付け　３，０００円～
（着付け終了後９０分間。以後３０分毎に＋５００円。）
※下着・下駄等 別途オプション有

お問い合わせ先

足利まちなか遊学館　※休館日：毎月第３月曜日・年末
ＴＥＬ/ ０２８４－４１－８２０１　担当：足利まち歩き事務局

時 間 / ９：００～１７：００
※着付けに関するお問い合わせは 13:00 までにしていただくとスムーズです。

住 所 / 栃木県足利市通１丁目２６７３－１

ACCESS
JR 両毛線 足利駅から徒歩約 10 分
東武伊勢崎線 足利市駅から徒歩約 15 分

“足利まち歩き事務局”facebook にて情報を更新中です！
https://www.facebook.com/ashikagamachiaruki/

丹後の思い出を持ち帰ってみませんか？
京都
与謝野町
手づくり
体験
シルク
100%
予約不要の
体験も
あるよ♪
stole
coaster
miçanga
与謝野町観光協会 ☎0772-43-0155

予約不要で気軽に楽しめる、世界に1つのコースター☺

シルクコースター手織り体験

体験料金 900円

所要時間：約30分

＊8名様以上の団体の方は、別途、講師料金が必要となります。

予約不要 受付10:00～16:00 年中無休※年末年始は除く

初めてでも簡単に楽しくシルクのコースターを手織りできます。
予約不要ですぐに体験でき、ちょっとの時間でもすぐ完成します。
旅行やちりめん街道散策の合間にふらりと立ち寄って、ご家族やご友人、恋人同士でワイワイチャレンジしてみませんか。

ちょっとの時間で、
お子様でも楽しく作れます🐾

ミサンガづくり

体験時間 600円

所要時間：約20分

予約不要 受付10:00～16:00 年中無休※年末年始は除く

初めてでも簡単に楽しくミサンガが作れます。大切な方へのお土産に、丹後の楽しい思い出に、ぜひ体験してみませんか。予約不要ですぐに体験でき、作り方もとっても簡単。お子様でも楽しく作れますので、家族旅行の思い出にぜひおすすめです。

シルクのまちづくり市区町村協議会・構成団体等一覧

（平成 29 年 2 月 7 日現在）

■会員（31団体）

1	山形県鶴岡市	12	新潟県十日町市	23	京都府京都市
2	山形県長井市	13	新潟県小千谷市	24	京都府宮津市
3	山形県白鷹町	14	新潟県南魚沼市	25	京都府京丹後市
4	福島県川俣町	15	石川県金沢市	26	京都府与謝野町
5	茨城県結城市	16	石川県小松市	27	愛媛県西予市
6	栃木県足利市	17	山梨県富士吉田市	28	鹿児島県鹿児島市
7	栃木県小山市	18	山梨県西桂町	29	鹿児島県奄美市
8	群馬県富岡市	19	長野県岡谷市	30	鹿児島県龍郷町
9	群馬県前橋市	20	長野県駒ヶ根市	31	沖縄県久米島町
10	東京都新宿区	21	長野県安曇野市		
11	東京都武蔵村山市	22	滋賀県長浜市		

◇役員

会　長　京都府京丹後市（市長　三崎　政直）

副会長　山形県鶴岡市・福島県川俣町・群馬県富岡市・石川県金沢市・長野県岡谷市・京都府与謝野町・愛媛県西予市

監　事　山梨県西桂町・京都府宮津市

■特別会員[オブザーバー]

農林水産省、経済産業省関係部署担当課長

■顧問（13名）

◎ファッションジャーナリスト

清水　早苗氏　　ジャーナリスト／クリエイティブ・ディレクター

◎クリエーションコーディネーター

松田　正夫氏　　繊維・未来塾 塾長／（株）大阪繊維リソースセンター特任顧問

岡田　茂樹氏　　鶴岡 kibiso プロデューサー／元東京ファッションデザイナー協会議長

◎テキスタイルデザイナー

須藤　玲子氏　　株式会社布取締役

酒井　美和子氏　（有）ＧＢカンパニー代表取締役

福井　健二氏　　K.FUKUI PERSONAL OFFICE&EA 主宰

永森　達昌氏　　オフィス・ナガモリ代表

◎和装

早坂　伊織氏　　着物伝承家

笹島　寿美氏　　着装コーディネーター・帯研究家

◎研究機関

玉田　靖氏　　信州大学　繊維学部　教授

長島　孝行氏　　東京農業大学　農学部農学科　教授（農学博士）

藤井　浩司氏　　早稲田大学　政治経済学術院政治経済学部／政治学研究科　教授

阿部　栄子氏　　大妻女子大学　家政学部被服学科　学科長／教授（学術博士）

■協賛者等（26団体）

◎蚕糸団体

（一財）大日本蚕糸会,（社）日本生糸問屋協会,中央蚕糸協会,碓氷製糸農業協同組合,蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

◎産地織物組合

鶴岡織物工業協同組合,福島県絹人繊織物構造改善工業組合,小千谷織物同業協同組合,山梨県絹人繊織物工業組合,滋賀県絹人繊織物工業組合,丹後織物工業組合,本場大島紬織物協同組合,本場奄美大島紬協同組合

◎絹業団体

全国染色協同組合連合会,全国染織連合会,京友禅協同組合連合会,京都工芸染匠協同組合,日本織物中央卸商業組合連合会,（一社）全日本きもの振興会,（公社）全日本きものコンサルタント協会,（一財）シルクセンター国際貿易観光会館（シルク博物館）,東京ネクタイ協同組合,日本繊維輸入組合,新宿区染色協議会

◎その他団体

GS 世代研究会,NPO 日本染織文化振興会

シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣旨

古来よりわが国に伝わる尊い宝、絹。

絹を用いる産業、すなわちシルク産業は、地域経済の中で重要な役割を果たし、地域の生活や風土に根付いた産業として我々の地域とともに発展してきました。同時に、悠久の歴史の中でこれら産業が培った技術により生み出される製品は、地域文化を育むと同時に、わが国文化の根幹に大きく関わり、地域の価値や日本の品格を伝えるものとして、産業・文化の両面で貢献しています。

ところが、社会・生活環境が急激に変化する中で、現在では資源の枯渇化や人材の不足、市場の縮小による需要減少など、地域のシルク産業の発展に支障が生じているとともに、近代化・平準化の中でわが国固有の誇りある文化の風化が危惧されているところです。

一般的に、シルク製品は、養蚕、製糸、織物、染色など多段階の工程の中で、それぞれに長年にわたって極められた究極の技術が、完璧なまでに調和され完成されます。またそのものづくりは、技術者同士の厚い信頼と連携の上に成り立ち、日本が誇るものづくりの原点ともなっています。さらに、世界においてもシルクは、かつてシルクロードという長大な交易ルートを創造し、産業を活性化するとともに東西文化の交流を育んできています。すなわちシルクは、単なる繊維素材ではなく、歴史的にも経済社会の様々な断面を相互に発展に導く共通のきずなであり、今後においてもシルクを通じた「連携」「国際展開」「産業活性化」「文化交流」などによって、様々な分野の未来に多くの示唆と可能性を与えてくれるものであると確信します。

こうしたシルクの持つ意味を改めて認識し、シルクに関連する産業、またはシルクに関係する歴史・文化を持つ市区町村が連携し、「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」など、シルクの意味を活用して新たな展望を切り開くため、「シルクのまちづくり市区町村協議会」を設立します。

平成２２年１月２６日

「足利まちなか遊学館」（栃木県足利市）

「村山大島紬」（東京都武蔵村山市）

「小松綸子」（石川県小松市）

「ストール（穂高天蚕糸使用）」（長野県安曇野市）

編集／発行　　シルクのまちづくり市区町村協議会

発 行 年 月　　平成２９年３月

【この情報誌に関するお問い合わせ先】
シルクのまちづくり市区町村協議会事務局
（京丹後市商工観光部商工振興課）
〒629-3101　京都府京丹後市網野町網野 353 番地の 1
TEL：0772-69-0440／FAX：0772-72-2030
メール：shokoshinko@city.kyotango.lg.jp
ホームページ：http://www.kyotango.net/silk/index.html